

区立幼稚園のあり方 に関する検討経過

令和 8 年 6 月 30 日

練馬区教育委員会事務局
学務課幼稚園係

目次

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

- (1) 区立幼稚園の経緯・現状等 1
 - ① 区立幼稚園の経緯
 - ② 幼稚園児数の減少
 - ③ 区幼児教育の需要と供給（参考）
 - ④ 障害児の受入増加
- (2) 区立幼稚園のあり方検討の開始 6

2 検討委員会における検討 8

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(1) 区立幼稚園の経緯・現状等

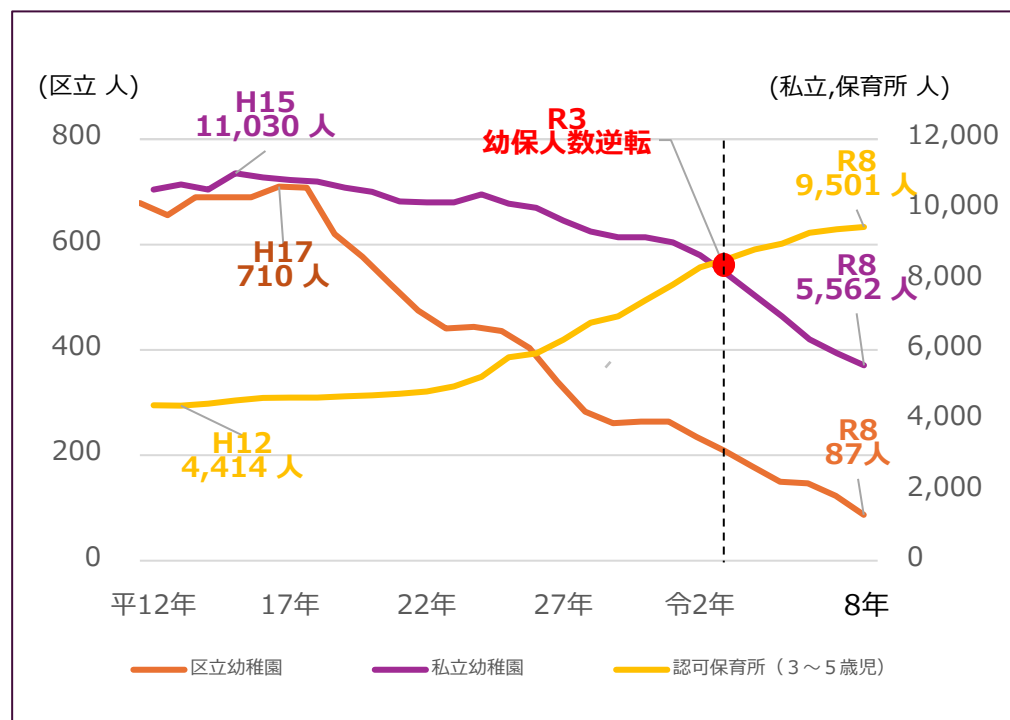
① 区立幼稚園の経緯

昭和50年	・区内初の区立園が開園（北大泉） ◆ 幼稚園の空白地域解消、2年保育開始
昭和60年～ 平成元年	・光が丘地区に4園（あかね、むらさき、わかば、さくら）が順次開園 ◆ 光が丘団地の開発に伴う需要増に対応、私立園の設置が見込めない
平成26年	・光が丘地区の2園を閉園（あかね・わかば） ◆ 保育二一ズの高まり園児減少のため適正配置を実施。跡地を保育所として活用 ・北大泉幼稚園、光が丘むらさき幼稚園、光が丘さくら幼稚園の3園を運営
令和6年～	・区立幼稚園の今後のあり方に関する検討を開始

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(1) 区立幼稚園の経緯・現状等

② 幼稚園児数の減少

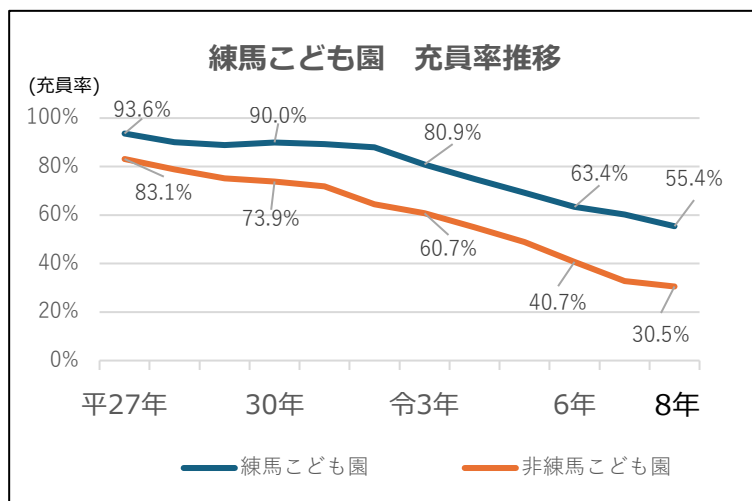


- ◆ 令和8年度における3～5歳の幼児のうち、幼稚園に通園している割合は約36%、認可保育所に通園している割合は約61%
- ◆ 保育園利用の需要増、急速な少子化などにより、幼稚園の園児数は区立・私立ともに近年大きく減少。
- ◆ 令和8年5月現在、区立幼稚園の充員率（定員に対する園児数の割合）は3園合計で約18%
- ◎ **園の小規模化により集団教育・保育から得られる様々な体験や活動に制約が生じることも懸念されている。**

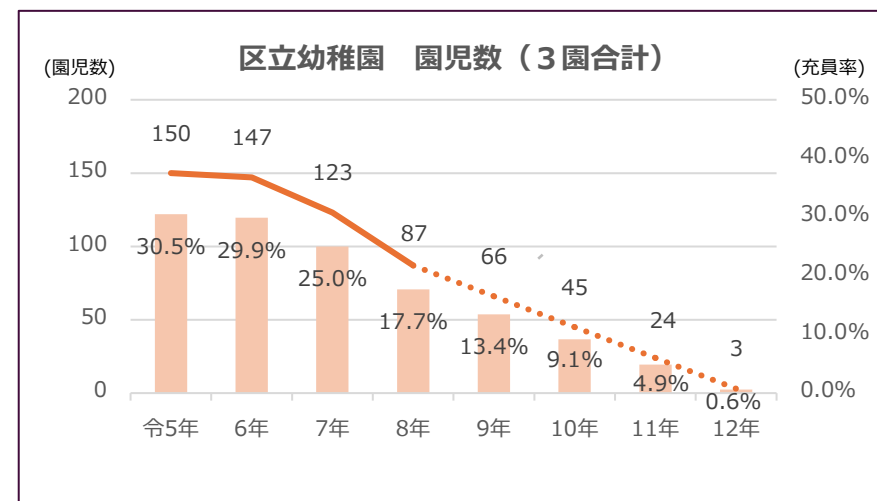
1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(1) 区立幼稚園の経緯・現状等

② 幼稚園児数の減少



- ◆ 3年保育・長時間預かり保育を実施する練馬こども園(私立幼稚園)も、一貫して充員率が減少



- ◆ 区立幼稚園の園児数の減少は顕著
- ◆ 直近3年の減少数を基に試算すると、今後の園児数は更なる減少が見込まれる。

◎ 幼児教育の需給状況(次ページ)から、今後区立園の急激な園児数増は見込めず、園児数の減少も顕著な状況。

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(1) 区立幼稚園の経緯・現状等

③ 区幼児教育の需要と供給（参考）

<第1号認定>（教育時間認定）

	単位	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
需要量見込み	人	6,100	5,718	5,421	5,081	4,865
供給量（定員数）	人	10,152	10,042	9,932	9,822	9,722
過不足（供給量-需要量）	人	4,052	4,324	4,511	4,741	4,857

- ◆ 今後の幼稚園教育について、供給が需要を上回る見込み

<幼稚園預かり保育>

	単位	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
需要量見込み	人日	335,500	331,644	330,681	325,184	316,225
供給量（定員数）	人日	694,242	701,182	708,195	715,275	722,428
過不足（供給量-需要量）	人日	358,742	369,538	377,514	390,091	406,203

※人日：年間延べ利用者数

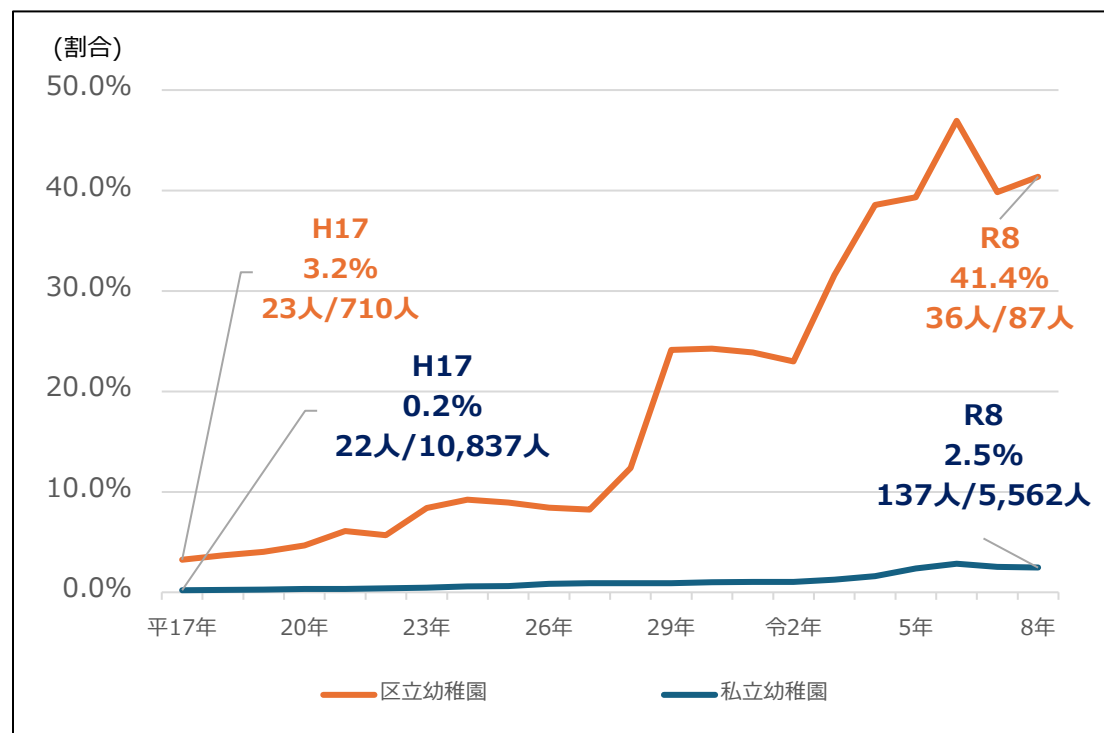
- ◆ 需要量が減少見込みである一方、供給量は増加見込みであり、供給過多の状況は今後も継続する見込み

<第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画（令和7年3月）抜粋>

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(1) 区立幼稚園の経緯・現状等

④ 障害児の受入増加



- ◆ 私立、区立ともに障害児の受入数は増加しており、区立の障害児の割合は私立と比べて高い傾向
 - ◆ 重度、医ケア児、私立への入園が難しい園児などを受入れ。
 - ◆ 園児数自体の減少に対し、園児数に対する要配慮児の割合は増加傾向
- ◎ **要配慮児に関する受入体制の充実や体制強化が必要**

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(2) 区立幼稚園のあり方検討の開始

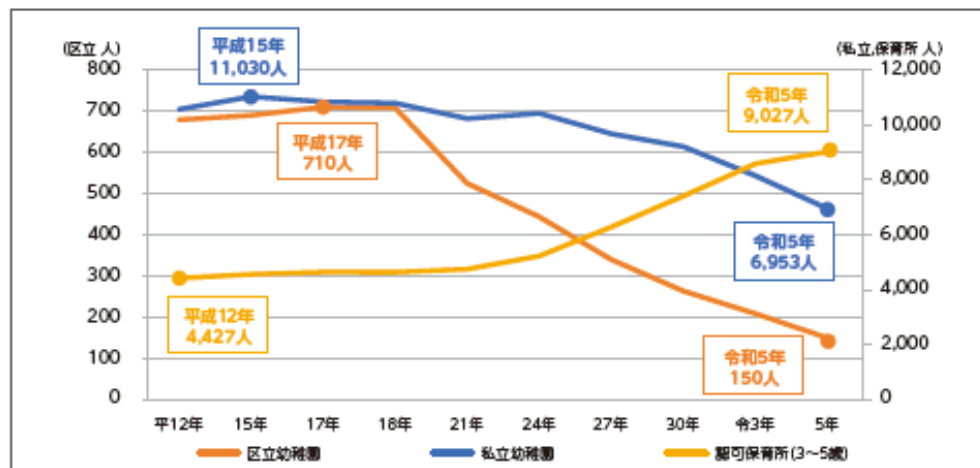
- ◆ 区は令和6年3月に、『第二次区立小・中学校および区立幼稚園の適正配置基本方針』を策定
- ◆ 区立幼稚園を取り巻く現状を基に、今後の区立幼稚園のあり方に関する検討実施を明記

1. 区立幼稚園を取り巻く状況

(1) 園児数の推移

幼稚園の園児数は、近年大きく減少しているのに対し、保育所の園児数は、増加傾向です。急速な少子化の進行、女性の就業率の増加による保育需要の高まりから、今後この傾向が続くことが見込まれます。

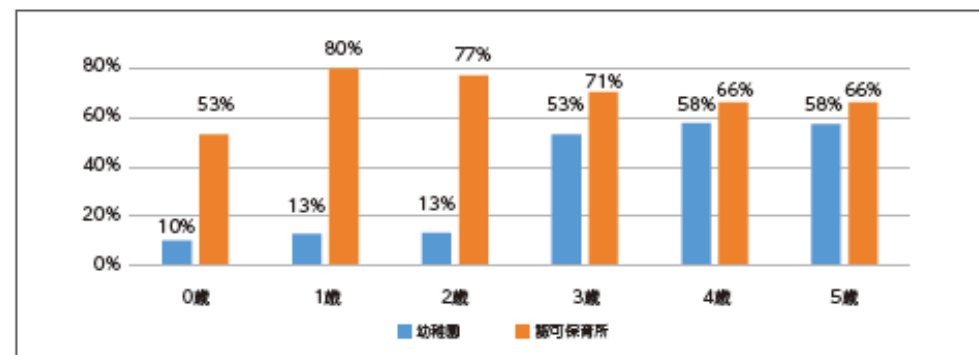
〈区内園児数の推移〉



(2) 幼稚園のニーズ

0歳児の子ども保護者に、現在と将来1～5歳になった時に利用したい施設を調査しました。0～2歳は保育所の利用希望が高いですが、3歳以降になると幼稚園の利用希望も増加しています。

〈保育施設の利用希望比率〉



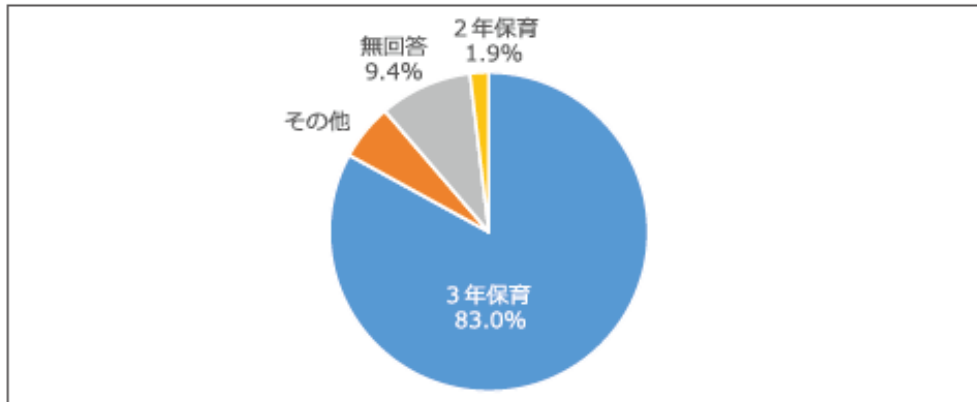
(出典)「子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査(R4.3)」加工

1 区立幼稚園のあり方検討の経緯

(2) 区立幼稚園のあり方検討の開始

また、幼稚園に通園させたい理由で「保育期間が適切である」と回答した方に保育期間について再度質問したところ、「3年保育が適切である」と回答した方が全体の8割を超えました。

〈適切な保育期間ニーズの割合〉



(出典)「子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査(R4.3)」加工

2. 区立幼稚園の教育

(1) 生きる力と豊かな心の育成

幼稚園は、小・中学校と同様に学校教育法に基づく学校であり、子どもが初めて出会う学校です。区立幼稚園は、同年代の幼児との集団生活を通して、基本的な生活習慣を身に付け、思いやりのある心を育てるなど、幼児期にふさわしい教育を行っています。また、「遊び」を心身の調和のとれた発達の基礎となる重要な学習と位置付け、幼児の感性や思考力、創造力をはぐくむことができる教育活動を展開しています。

(2) 私立幼稚園との連携

区全体の幼児教育の充実・発展のため、私立幼稚園と協力して研究や研修を行うなど連携した取組を実施しています。

3. 区立幼稚園のあり方検討委員会の設置

区立幼稚園は、女性の就業率の増加による保育需要の高まりや急速な少子化により園児数が減少している一方、障害児保育や3歳児以降の預け先として一定のニーズも存在しています。今後の園児数の推移を踏まえた適正規模だけでなく、障害児保育や3年保育など、区立幼稚園のあり方について令和6年度に検討委員会を設置し議論していきます。



令和6年度から、区立幼稚園のあり方に関する検討を開始

2 検討委員会における検討

- ◆ 令和6年度から令和7年度にかけて、計6回検討委員会を開催

令和6年度 検討委員会（全2回）

- ◆ 学識経験者、幼稚園関係者を含め、『練馬区立幼稚園あり方検討委員会』を設置

構成委員

大学准教授	2名
私立幼稚園協会	3名
区立幼稚園長	3名

- ① 保護者アンケートを実施し、ニーズ等を調査
- ② 委員による区立幼稚園の視察を実施
- ③ 区立園の現状・課題の認識を共有

令和7年度 検討委員会（全4回）

- ◆ 新たに区立幼稚園の元保護者を加え、『練馬区立幼稚園検討委員会』を設置

構成委員

大学准教授	2名
区立幼稚園元利用者 (保護者)	2名
私立幼稚園協会	3名
区立幼稚園長	3名

- ① 区立幼稚園の必要性を共有
- ② 区立幼稚園のあり方について、基本的な方針（4点）を検討

◆ 質の高い教育の提供継続

◆ 要配慮児の教育機会保障および早期支援

◆ 幼小連携の主導的役割の発揮

◆ 子育て世帯に対する支援の充実

- ③ 今後の区立幼稚園のあり方に関する施策について検討

◆ 3年保育の実施

◆ 長期休業中の預かり保育の実施

◆ 園の集約

◆ 円滑な幼小連携

◆ 子育て世帯への支援